

桜満開の2021年3月21日(日)、福岡学習センターで開催された学位記授与式で博士(学術)の学位記を受領し、安堵感と達成感を実感しました。コロナ禍の影響で幕張メッセでの学位記授与式は放送番組として挙行されたため、それは実際に学位記を手にした瞬間でした。その3年前に本部で行われた博士後期課程のオリエンテーションで、ある先生がおっしゃっていた「毎日10分でいいから博士論文のことを考えてください。」という言葉が胸に日々頑張ってきて良かったと思えた瞬間でもありました。

放送大学大学院の博士後期課程では、自分の専攻するメジャープログラムだけでなく、専攻以外のマイナープログラムの科目履修も必要となります。放送大学では学際的な研究を通じて複眼的で深い思考が可能な人材育成を指向しているからだと思います。私は社会経営科学プログラム専攻でしたので、主任指導教員の先生と相談のうえ自然科学プログラムの数理論理学研究法も履修しました。マイナー科目の履修により論理的思考の基礎を学ぶことができ、博士論文の構成における論理的整合性につながったと思います。私の博士論文のテーマは組織学習に関するもので経営学の範疇になります。社会経営科学プログラムにおける私の主任指導教員は経営学の先生であり、主たる講義や研究指導をお受けするとともに、博士論文作成過程で実に懇切丁寧なご指導とご激励を賜りました。他の経営学の先生からも講義をお受けする機会もありましたし、それに加えて社会学、政治学、法律学などの先生方から講義や指導を受ける機会もありました。それらの学びは、いずれも新たな知識と私の研究への気づきを多々得られる機会でした。単に、自分の博士論文のテーマに関する文献から学ぶだけではなく、実に幅広い領域の学問からの示唆を得られるというのが放送大学の最大の特長だと思います。実際に、私の博士論文作成過程においても、研究法、概念構築、論理展開などで多様な先生方からのご教授が活かされたと思っております。

博士論文作成は容易い道のりではありませんが、その過程では学ぶ喜びや達成感を感じることができます。自分の思考力が学問を通じて高まっていく感覚を得ることもできます。放送大学大学院博士後期課程の受験は、「チャレンジすべき価値あること」だと思います。これから挑戦しようと考えていらっしゃる方に1つだけアドバイスさせていただきます。博士論文を審査していただくには、査読付き投稿論文2編以上という条件があります。私は入学後に学会誌へ投稿し条件をクリアしましたが、それを約2年間で達成する必要があり、結果して博士論文作成の時間が相当に短くなってしまいました。もし可能でしたら、入学前に1編だけでも投稿を完了しておけば、博士論文作成の時間が十分に確保できるかと思えます。

以上が私の体験談ですが、皆さまのご参考になれば幸甚に存じます。